

計画04 病院・診療所

- 1 総合病院の計画において、看護動線の短縮及び病室の観察の容易さを確保するため、看護拠点については、ナースステーションのほかにナースコーナーを設け、分散配置した。
- 2 総合病院の計画において、病院管理の効率及び患者の動線を考慮して、外来部門を診療部門と病棟部門との間に配置した。
- 3 400床の一般的な総合病院の計画に当たり、産科と小児科の1看護単位をそれぞれ50床に設定した。
- 4 一般的な総合病院の計画に当たり、病棟にバルコニーを設け、火災時の有効な避難経路とした。
- 5 200床の一般的な総合病院の計画に当たり、入口を3箇所に分け、外来用、サービス用、及び救急・職員用の入口を設けた。
- 6 養護施設の計画に当たり、1部屋の定員を4人とし、すべての生活がその部屋で完結するように、作業用のスペースなどを設けた。
- 7 介護老人保健施設の計画において、4人部屋の療養室については、1室当たり床面積28㎡とした。
- 8 一般的な総合病院の計画において、延べ面積に対する外来部門の床面積の割合を40%とした。
- 9 400床の一般的な総合病院の計画に当たり、病棟部の占める床面積を、延べ面積の約40%とした。
- 10 病院管理の効率および患者の動線を考慮して、外来部門を診療部門と病棟部門との間に配置した。
- 11 総合病院において、ベッドの間隔を1m確保する4床病室の面積を32㎡以上とした。
- 12 400床の一般的な総合病院の計画に当たり、手術室の数を6室とした。
- 13 総合病院の計画に当たり、磁気共鳴現象を利用した断層診断装置であるMRIの設置に当たって、部屋の天井・床・壁面に磁気シールドを施した。
- 14 総合病院の排水計画に当たり細菌、化学薬品、重金属類を含む特殊排水については、それぞれ減菌槽・中和槽・重金属改修装置などによる処理とした。
- 15 分娩部に陣痛・分娩・回復を一室で行うLDRシステムを導入するに当たって、ソファーや安楽椅子を配した家庭のような雰囲気を持たせ、無影灯や酸素ガスの配管などの設備も目に触れないように配慮して設けた。
- 16 ICUを設けるに当たって、末期患者や回復の見込みのない患者の長期間の利用が中心となるので、居住性を重視した。
- 17 看護動線の短縮及び病院の観察の容易さを確保するため、看護拠点については、ナースステーションのほかにナースコーナーを設け、分散配置した。
- 18 一般病院において受け入れ可能な感染症に対応した病室を設けるに当たって、隔離病棟ではなく一般病棟に感染症患者を隔離できる病室として設けた。
- 19 ICU全体の床面積を、1床当たり18㎡とした。
- 20 SPDは、重症患者に対して高度な設備によって短期間で集中的に治療・看護を行う室。手術部に近接させる。
- 21 総合病院の中央材料室は、手術室との関係を重視して配慮する。
- 22 緩和ケア病棟の計画において、病院を全て4床とし、衛生上の観点から便所は病室の外にまとめた。
- 23 病棟の計画において、電子カルテを導入し、看護作業拠点を各病室から近いところに分散配置した。
- 24 診療部門の計画において、放射線の防御や機器荷重に耐えるための床・壁などの建築的性能を考慮し放射線治療室を近くに配置することは望ましい。
- 25 総合病院における小児病棟の計画において、入院する子供たちの教育や学習の場として院内学級のための教室を配置した。

計画04 病院・診療所

- 21 ○ 看護動線の短縮及び病室の観察の容易さを確保するため、看護拠点については、ナースステーションのほかにナースコーナーを設け、分散配置する試みもある。
- 22 × 総合病院の計画においては、病院管理の効率及び患者の動線を考慮して、診療部門を外来部門と病棟部門の中間に配置することが望ましい。
- 8 × 総合病院の看護単位は一般に40～60床とされるが、産科・小児科は看護の仕事量が多く、1看護単位を30床程度とする。
- 9 ○ 病棟に設けたバルコニーは、火災時の有効な避難経路とし利用できる。
- 10 ○ 総合病院の出入口は、外来用、サービス用、職員用を分けることが望ましい。
- 18 × 養護施設は利用者の年齢、養護形態が多様であり、1部屋の定員は1～4人程度とし、便所・洗面所を設ける方が良いが、すべての生活がその部屋で完結するのではなく、別途に学習室・図書室・作業室などを計画する。
- 24 × 介護老人保健施設の療養室の施設基準は、1室の定員4人以下、壁内法の有効面積1人当たり8m²以上とされる。4人部屋の療養室では有効床面積は32m²以上必要であり、28m²では狭い。
- 8 × 一般的な総合病院で、通院による診断・治療を行う外来部門の占める床面積は、延べ面積の10～15%程度である。
- 9 ○ 一般的な総合病院で、病院部の占める床面積は、延べ面積の35～40%程度である。
- 10 × 病院の利用者は患者(外来・入院)、来訪者(家族・見舞客)、医療提供者(医師、看護師)、サービス(メンテナンス・委託業者)に分類ができ、それぞれの利用者が無用に交錯することがない計画が前提となる。診療部を外来部と病棟部の中間に位置させる。
- 11 ○ ベッドの間隔を750mm以上確保する。1m以上確保できる病室は8m²/人以上病院の病室:6.4m²/人 小児病室:6.4m²/人×2/3
- 12 × 病棟50～100床当たり1室程度。手術室の広さは、6×6mから4.5×4.5m隅を丸く落とし、独立した空調系とする。
- 13 ○ X線検査室は鉛などで操作室や他の部屋と遮断しなければならない。検査機器によっては、電磁波防止のシールドのある部屋が必要である。
- 14 ○ 病院排水には人体に影響を及ぼすリスクが数多く含まれている。「検査系排水」「人工透析排水」「感染系排水」「RI排水」など特殊処理を要する排水計画が必要である。
- 15 ○ 産科病棟では分娩から回復まで居間的雰囲気の一室で行うLDRがある。
- 16 × ICUは手術後の集中治療室で、一般病棟に移るのが前提である。末期患者の長期治療施設はホスピスと呼ばれる。特殊な病室で重症患者を短期間収容し強度看護を行う。
- 17 ○ ナースステーションは病棟の入口に近く、看護単位全体に見通しのきく場所に設ける。
- 18 ○ 正しい。
- 19 × ICUにはモニターなど多くの機器、ナースステーション、休憩仮眠室、作業室など専用諸室を必要とする。1床当たり40～60m²の面積が必要である。
- 20 × ICUの説明である。手術部に近接させる。SPDとは物品管理センターのことで中央材料室を含め、病院内で使う物品をすべて一元的に管理・供給するセンター。
- 21 ○ 中央材料室は、手術部、病院部、外来部などで使う機材の洗浄・滅菌を行うところであり、その配置は手術室との関係を第一とし、次に病棟部との関係を考慮する。
- 22 × 緩和ケア病棟の計画では、病室として、便所は病室の中に設けることを原則とする。
- 23 ○ 正しい。
- 24 ○ 正しい。
- 25 ○ 正しい。